

平成 29 年度 施策評価表



施策	0202	小・中学校教育の充実	施策推進担当部	教育委員会
施策の方針	心の教育や健康教育の充実を図りながら、生きる力を育む学校教育を推進する。また、信頼される学校づくりを目指し、学校評価の充実や教育活動の広報に努める。			

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	H31目標値	H32目標値	H28年度		
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	達成率	進捗率	
① 小・中学校の標準学力の検査結果（市内平均値／全国平均値）	%	97.1	100 96.2	100	100	100	100	100	96.2%	96.2%
② 小学校の総合的な学習の時間に占める「ふるさと学習」の割合	%	27.0	35.0 34.6	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	98.9%	98.9%
③ 中学校の総合的な学習の時間に占める「ふるさと学習」の割合	%	16.9	25.0 17.5	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	70.0%	70.0%
④ 学校教育に対する保護者の満足度	%	88.0	90.0 83.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	92.2%	92.2%
⑤										

施策達成状況の説明

①について
 ・検査は、小学校2～6年生、中学校1～3年生の国語と算数・数学、中学校2・3年生の英語で実施。市内平均値が全国を上回ったのは、小学校3年生の国語と算数のみであった。中学校の各検査は小学校の検査より、全国との差が大きい傾向がある。これは、得点の高い児童が市外の中学校に転出した影響もあると考えられる。

②③について
 ・小学校3年以上が「総合的な学習の時間」を実施している。小学4年生と中学2年生の割合が、それぞれ14.4%、5.5%と基準値に届かなかったことが全体に影響している。小学校4年生は「1/2成人式」や「福祉」に関する内容を、中学2年生は職場体験学習に関する内容をそれぞれ総合的な学習の時間で扱っているためと考えられる。

④について
 ・小学校84.7%、中学校79.5%であった。基準値を超えた学校は21校中、小学校7校のみであった。

施策経費

(単位:千円)		H28年度 決算	H29年度 予算	H30年度 見込	特記事項
内訳	事業費	524,668	600,334	559,819	
	国庫支出金	6,147	6,845	7,255	
	県支出金	3,127	3,254	2,684	
	地方債	0	0	0	
	その他	11,087	29,538	10,565	
	一般財源	504,307	560,697	539,315	
	人件費	46,609	53,764	-	
	フルコスト	571,277	654,098	-	

施策の概要

020201	生きる力を育む学校教育の推進	時代のニーズに応じた豊かな学力と確かな育ちを保障し、生きる力を育むために、少人数指導、チームティーチング、ICT教育など、質の高い教育を実施します。また、ALT（外国語指導助手）を活用するなど、グローバル人材の育成に向けた英語教育を推進します。さらに、小・中学校教職員が連携を図り、学習指導や生徒指導を充実するとともに、小中連携教育や小中一貫教育の在り方について調査・研究を行います。
020202	心の教育の推進	創造力豊かで思いやりのある心を持った児童生徒を育むため、学校が家庭や地域社会との連携を図りつつ、道徳教育や人権教育、郷土教育などを実施します。
020203	健康教育の推進	体力の向上や心身の健康増進のため、体育科の学習を通じた児童生徒の基礎的な体力づくりや、運動能力の向上に努めます。また、食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくよう、食育を推進します。
020204	信頼される学校づくり	小・中学校のホームページや学校だより等による教育活動の広報を強化するとともに、学校評価の充実を図り、特色のある学校づくりを目指します。

【CHECK (評価)】

施策を達成する上での問題点・課題	①について ・児童生徒の学力を向上させるために、教師の指導力向上を図る研修の充実をはじめ、家庭学習の見直しなどあらゆる取組を行っているが、市内平均値が全国を下回っている要因を特定できないことが課題である。 ②③について ・総合的な学習の時間における「ふるさと学習」を増やすためには、各学校で次年度の年間指導計画を見直す必要がある。年間指導計画の見直しが進まない理由として、総合的な学習の時間の実施には指導の指針を示す教科書等が存在しないことや学校外の関係者との調整が必要なことなどが考えられる。 ④について ・学校教育に対する保護者の満足度には学校間格差が大きい。その要因を分析し把握することが課題である。
------------------	--

【ACTION (改善・改革)】

問題点・課題を踏まえた施策構成の改善・改革や新規事業についての考え方	①について ・提示教材やドリル教材を配信するオンラインサービス「eライブラリアドバンス」を全児童生徒が使用できるよう整備した。 ・授業改善を推進するため本年度実物投影機を各学級に配置した。他のICT機器とともに更なる活用の充実を図る。活用方法について校内研修で取り上げたり、教育委員会主催「ICT機器活用研修会」を開催して教職員の指導力を高める。 ・研究主任、教務主任を対象とする研修会を開催し、その成果をもとに各学校における学力向上の取組の充実を図る。 ・「家庭学習のしおり」などを作成し、児童生徒や保護者に説明・配付することで家庭学習の充実を図る。 ・「eライブラリアドバンス」はインターネット環境が整備されている家庭でも活用できるため、家庭学習の充実に繋げることができる。 ②③について ・校長会や教頭会等で、総合的な学習の時間における「ふるさと学習」の時間数増を指導する。 ④について ・校長会や教頭会等で、学校評価におけるPDCAサイクルの確立を図るよう指導する。
------------------------------------	--

平成30年度新規事業

事業名 (仮称)	担当課	H30年度見込	対象・事業概要など
		事業費	
1 特色ある教育活動推進事業	学校教育課	968	特色ある教育活動を展開することで、松原小学校の児童数減少に歯止めをかけ、より一層の学校教育の充実を図る。
2			
3			
4			
5			
		968	

【評価調整委員会意見】

1	施策推進担当部意見のとおり
<<特記事項>>	

【最終評価 (都市経営戦略会議)】

1	評価調整委員会意見のとおり
<<特記事項>>	